

第 3 回 同 窓 会 報

〒564 吹田市山手町 3 丁目 3 - 35
☎06-368-1121 内線5840
同窓会編集委員会 発行

ヒビヒビ

“卒業生に聞く”

「リクルート活動に思う」



峰野 幸弘

(昭和39年卒 株堀場製作所勤務)

守衛さんが立つ重厚な門を入ると、左にカードシステムで入る真新しい総合図書館、その隣に情報処理センター、その奥に懐かしい第四学舎群と実験実習場、さらに右後方に室内温水プール付き100周年記念会館。20年振りに訪問した母校の変身した姿を目にしたのは、一昨年の晩秋であった。

訪問する少し前に化工三同期卒の同窓生である石井さん（現応化教授）より電話があり、“あと数ヶ月で就職活動に入る応化三年次生の為に、役に立つ講演を！”との依頼を受けた。新卒生の就職も、ここ数年は売り手市場から一転し、閉塞感のある経済情勢の中で厳しさを増してきている。真夏の強い日差しの中、紺のスーツで汗だくのリクルート活動をする学生さんを見るたびに、頑張れという気持と共に心が痛む事が多かった。仕事柄、採用責任者として面接時に立ち会うが、リクルート雑誌に記載されている画一的プレゼンテーションをする学生さんが多く、偏差値教育の弊害も感じていたし、もっと若者らしく自己主張し、自分の言葉で喋ってほしいと思っていたので、お役に立てるならとお引き受けした。

また昨年の秋には、私の出身講座の化工植村教授より電話を頂き“応化で話をし、化工で話をしないのは、けしからん”ということで、化工三年次生を対象に講演に引っ張りだされることになった。

講演テーマは応化が“情報化時代のビジネスマン”、化工が“企業が求めるエンジニア像”で、いずれも実験科目の時間を割いて頂いた。

母校を卒業して33年、この間日本及び企業を取り巻く環境はめまぐるしく変遷してきた。記憶に残っているだけでも、ニクソンショック、円の変動相場制、第一次、二次石油危機、ブラザ合意、東西ドイツ統合、EC通貨統合合意、ソ連崩壊、バブル崩壊、円高、構造的不況、等等。21世紀を目前に、一つの時代が終焉し、次の時代へ移行する大過渡期で、日本も企業もまたそこで働く人も、

面舵を一杯切って、構造的改革を進め、激震する変革の時代を乗り切ろうとしている真っ只中にあるという認識が、大方の見方でなかろうか。価値観は多様化し、激烈な大競争時代を迎え、否が応でもグローバル化の波に洗われる現在の日本は、テーゼとアンチテーゼの同居の時代（主張・命題がない）、NEEDSからWANTSの時代とか、ヒーリング（癒し）の時代、と呼ばれ数年前とは様変わりのParadigm Shift（常識・社会通念の変化）が起きている。

このような時代に対応して、各企業もまた諸制度の変更、実践英会話を含む職務教育内容の見直し、インターネットを含む情報ツールとグローバルネットワークの構築等大きな変化が見られるが、何よりも日本的経営スタイルの変化により、終身雇用制度から資格定年制、年功序列から実力主義・年俸制、ヒエラルキー（階層）組織からフラット組織、大量生産・大量販売から価値創造製品への大変革が見られる。

このような激しい変革の時代に就職活動をする学生諸君も気の毒であるが、厳しい変革時代だからこそ、企業側の採用基準に変化が見られるし、何よりも今の日本と企業を取り巻く環境のバックグラウンドと対応策を知って頂いた上、腹を据えてリクルート活動に臨んで頂きたくて、多くの事例をカラーOHPで紹介させていただいた。あと数ヶ月で就職活動に入るとはいえ、常日頃、実験や取得単位の多い応化、化工科の三年次生に果たして私の意図が通じたか不安であった。

数週間後、応化の浜中教授（昨年退官）より、丁寧なお礼状と共に、100名以上に上る講演受講者の感想文が送付されてきた。“就職を真近に控え今回の講演は大変有意義であり且つショックであった。特にキーワードとしてグローバル化、英会話力、インターネット等、講演を聞いて自分が遅れているのを自覚し、残された学生生活をコンピュータ、英会話にも力を注ぎ、海外にも行ってみたい。”というのが大方の感想であった。所詮、企業は人であり、時代がいかに変わろうとも、豊かな発想と物事に取り組む姿勢は普遍と思う。一人一人の学生さんが自分に合った職種、就職先で、力を発揮され、自己実現されんことを祈らずにいられない。

化学工学科が設置され平成9年度で39周年、3,500人に上る卒業者が、それぞれの分野でご活躍中です。私自身の反省ですが一時の時間を割いて、後輩のため役立つ手を、少しはしなければと思ったリクルート講演での母校訪問であった。

「卒業後を振り返って仕事について思うこと」

ローム(株)液晶開発課
金本和己



新年あけましておめでとうございます。早いもので私が関西大学大学院を卒業して、7回目の正月を迎えることになりました。その間、関西大学も正門付近の様相がすっかり変わったことを西村先生からお正月に聞き驚いています。

社会、産業自体もここ数年急激に変化し、エレクトロニクス業界においてはその中心にあったように思えます。私も化学工学専攻でしたが、電子部品・半導体製造の会社に就職し、その流れを実感しています。また私が製造している液晶は、一つのキーデバイスとして近年目覚ましく発展してきました。特に、

携帯機器（ノートパソコン、PDA、携帯通信機等）にとっては、欠かすことのできない表示デバイスといえます。そのような環境の中で仕事ができることはある意味で幸運であったと思います。

しかし、「幸運」と「幸福」では意味が異なるように、仕事においても幸福感（充実感）は違うの

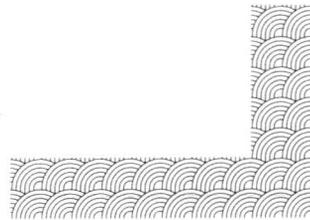
ではないでしょうか。私の場合、自分が開発に携わった液晶パネルがセットに組み込まれ市場にでていると、何だか嬉しくなりつい街の販売店へ見にいったりします。また、その気持ちは、開発が困難であればある程大きくなります。

今までで最も感慨深かったのは、やはり関西新空港のフライトインフォメーションボード用液晶パネルを開発したことです。国家プロジェクトとして動いていた関西新空港のフライトインフォメーションボードに日本で初めて液晶を使うという話が舞い込んで来た時、やっと一人で仕事ができるかどうかの私が担当として選ばれました。液晶パネルはその特性上（角度により見え方が異なる視角依存性）、空港のフライトインフォメーションボード等に使用されるには、多くの問題点がありました。特に、コントラストに対する要求スペックは厳しく、それを克服するために何度となく試作を繰り返しました。「もうこれ以上ネタが無い」と半ば諦めかけていた時、上司のアドバイスからヒントを得て試したことがうまくいき、やっとのことで開発に目処をつけることができました。今から思えば、その数カ月間で初めて社会人の厳しさを知ることができたのと同時に、仕事に対する自信が生まれたような気がします。「困難の向こうに成功がある」とよく言われますが、身をもって体験することができました。数年後、関西新空港が開港され、初めてその姿を見たときは、ほっとした安堵の気持ちに包まれました。このように、自分の開発した製品が街のどこかで見かけられると、「モノ作りをやっていて、良かった。」と感じます。

余談になりますが、掲載されている写真は、今年の夏、立山・室堂に行ったときのものです。テレビ、雑誌等で紹介されていた立山は、非常に美しく、壮大であったので一度行ってみたいと思ってました。実際の立山の景色は想像以上でとても感動しました。何事につけ、実際に体験することが大切であるということが、ここでも言えるのではないのでしょうか。



教室だより



「横川親雄名誉教授 勲三等瑞宝章を受賞」

横川親雄名誉教授は本年度秋の叙勲で勲三等瑞宝章を受章された。昭和44年に京都大学から工学部化学工学科教授に就任された。この間、主として石炭科学の分野で研究を続けられ、燃料協会から二度にわたって協会賞を受けられた。本学の教育・研究は言うに及ばず、工学研究科長、大学院部長を歴任され、大学院の充実に尽力された。中国・東北工学院（現東北大学）への最初の交換教授として派遣され、その功績として名誉教授の称号も受けられている。

平成7年度化学工学科同窓会会計報告

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

収 入				支 出			
費 目	予 算	実 行	差 額	費 目	予 算	実 行	差 額
前期繰越金	2,868,664	2,868,664	0	総 会 費	10,000	4,820	5,180
入 会 金	93,000	93,000	0	会 報 費	500,000	331,369	168,631
会 費	900,000	919,000	△ 19,000	事 務 費	40,000	1,969	38,031
銀 行 利 子	10,000	34,046	△ 24,046	通 信 費	20,000	1,270	18,730
雑 収 入	0	2,000	△ 2,000	卒 業 記 念 品	70,000	35,840	34,160
				人 件 費	204,000	205,000	△ 1,000
				雑 費	20,000	23,120	△ 3,120
				次 期 繰 越 金	3,007,664	3,313,322	305,658
合 計	3,871,664	3,916,710	△ 45,046	合 計	3,871,664	3,916,710	△ 45,046

平成7年度化学工学科同窓会会計監査報告

平成7年度の化学工学科同窓会の会計報告書に従って、金銭出納帳について慎重に会計監査を行った結果、平成7年度化学工学科同窓会会計の運用状況は厳正かつ正確であり、その記述内容に相違がないことを認めます。

平成7年度化学工学科 同窓会会計監査委員 伊与木 茂 樹

阪 元 勇 輝

平成8年度同窓会予算案

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

化学工学科同窓会

収 入		支 出	
前 年 度 繰 越 金	3,313,322	総 会 費	10,000
入 会 金	82,000	会 報 費	500,000
会 費	900,000	事 務 費	40,000
銀 行 利 子	30,000	通 信 費	20,000
		卒 業 記 念 品	70,000
		人 件 費	216,000
		雑 費	20,000
		次 年 度 繰 越 金	3,449,322
合 計	4,325,322	合 計	4,325,322

■編集後記

化学工学科同窓会も今年で3年目になります。学内委員の私たちは何かと多忙で、十分な同窓会の活動ができていないことをお詫びいたします。しかし、今年度も32名の修士および125名の学士が関西大学から巣立っていかれます。皆様のご多幸を祈りつつ、今年こそは年度の活動計画を早めに考え、実行したいと決意するしだいであります。(H.Y.)